

自主防災組織 防災訓練で自ら学ぶ

本市では、平成21年度から自主防災組織が自主的に訓練や研修会を行うときに、2万円を上限に運営補助金を交付しています。本年度も、多くの組織で補助金の交付を受けて訓練を実施しています。その中から、いくつかの自主防災組織の取り組みをレポートしました。

小原冷清水自治会自主防災会



▲火災防ぎょ訓練で、指導に当たった白石消防署の松井警防係長の説明を熱心に聞く自主防災会の皆さん

昨年8月1日、平成19年2月に設立以来、初めての防災訓練を行いました。昨年、団員の不足から同地区の消防団が解散。また、本来であれば消防団の解散により返却しなければならぬ小型消防ポンプとポンプ置き場を、市から無償譲渡を受け、従来通り使用できることになりました。このようなことから、あらためて地区住民の防災意識を高め、全員で防災技術を習得しようと、今回の訓練が実施されました。訓練は、各班の安否確認（出席人員報告）から始まり、婦人防火クラブによる初期消火訓練、防火水槽と消防ポンプを利用した火災防ぎょ訓練、炊き出し訓練などが行われました。火災防ぎょ訓練では、消防ポンプを防火水槽に運ぶところからスタート。同自治会には元消防団員が大勢いるので、訓練は

スムーズに進行しました。それと同時に、「男性は経験があるが、女性は使用方法などの知識がない」、また、「重いポンプを女性が運び使用できるか」など、万が一、女性しか現場にいないかたどきなどの不安や解決策などを話し合いました。訓練後、参加した皆さんは、「自分の身を守るためには、確実に基本を身に付けることが大事」「自主防災として活動したときに人が出た場合、補償はどうなるのか？ 自治会として保険をかけるべきではないか？」など活発な意見が出されました。そして最後に、参加した皆さんでバーベキューを楽しま親ほくを図りました。自主防災のもうひとつの目的は、「地域のコミュニケーションの向上」にあります。同自治会においても、「自治会全員が参加するようなイベントは今回が初めて」と話すほど、地域のつながりがいつの間にか薄れてきていたのかもしれない。今回の訓練が地域を守る第一歩となり、地域の人と人をつなぐ第一歩になることでしょう。



▲避難場所の集会所に参加者が集合

菊地光男自治会長は、「隣近所のつきあいが防災につながると思います。この地域は住宅が点在しているので、今回のような訓練を通して、普段集まらない人々が一堂に会することで、防災について話し合うことができます。次は、簡易リヤカーでの要援護者、救護者の搬送を実施したいです」と、訓練の意義を話してくれました。

大鷹沢第5自治会自主防災会

10月31日、54戸のほぼ全戸から61人が参加。避難経路を確認しながらの避難訓練が始まりました。消防団は積載車で地区内をパトロール。一人暮らし高齢者の安全確認のほか、婦人防火クラブの皆さんによる炊き出し訓練では、作業の手順を会員全員で確認しました。

大平地区自主防災連合会

10月31日、宮城県沖地震を想定して、避難訓練を実施しました。270人を超える住民が各地区の集会所に集結し、各避難ルートを確認しながら大平公民館に避難しました。

その後、消防署員の指導で心肺蘇生法の講習会が開催され、約90人が参加しました。自治会連合会大平支部長の野四郎さんは、「宮城県沖地震を意識して、多くの住民が参加してくれました。台風で薪を使った炊き出し訓練ができなかったのは、大変残念です。来年は、リヤカーを購入する予定で、寝たきりや高齢者などの要援護者の避難訓練を取り入れたいと考えています」と、次回の訓練の構想を話してくれました。



▲訓練を運営した各地区自主防災会の会長（自治会長）の皆さん

越河地域振興会自主防災連合会



▲土砂災害対策図上訓練

8月5日、越河公民館で越河地域振興会自主防災連合会の図上訓練が行われました。昨年の夏は、歴史に残る猛暑となり、この日の会場の室温は夜になっても一向に下がらず、集まった皆さんは大粒の汗を流しながら訓練を行いました。訓練は、過去の被害を地図上に示しながら、婦人防火クラブ

や消防団の皆さんが、各地区の役割や災害の形態によって避難経路が変わることなどを、大きな地図を使って行いました。今回の訓練では、越河地区の各種団体の代表者も訓練に参加し、自主防災組織との連携を確認していました。大災害では、多くの組織との連携が非常に重要となります。

■自主防災連合会長
二瓶 晃一さん



参加者全員が集まっていただけ、大成功でした。災害時の対応マニュアルが出来上がったことはとても良かったと思います。

■地域振興会防災・福祉部長
遠藤 孝さん



それぞれの状況において、各自主防災会や協力団体が思いを新たにすることで、防災活動あはれないかと思えます。訓練の目的は、各自主防災会の対応要領と各協力団体との連携要領を確認し、災害時にはスムーズな対応ができるようにしたいということです。

■婦人防火クラブ越河支部長
遠藤 和江さん



自主防災組織連合会が白石で初めてできた地区であり、常日ごろの意識が高いことをあらためて感じました。婦人防火クラブでは、地区の高齢者の皆さんを援護することについて、常に心掛けています。

■白石市消防団越河分団長
大浪 國男さん



消防団は、災害時には幹部が公民館に集結し、各班による巡回、報告を受けるようにしています。今後も、常に予防消防の徹底を念頭において、巡回活動を密にしていきたいと思えます。